

## 幼稚園教育における「思いやり」育成のための実践的研究 —M幼稚園における「思いやり」の観点からみた園児たちの実態把握の試み—

三浦友悦<sup>1</sup>

これまでは「思いやり」に関する実態把握の方法としては、観察者による行動事例の拾い上げと考察という方法が採られることが多かった。この方法においては、事例の読み取りや考察は、観察者の考えや印象にゆだねられてしまい、確実性に欠けるものがあった。そこで、M幼稚園の園児を対象にして、行動の内側に働く要素をもとにした新たな実態把握の方法を試みた。その結果、事例行動に根差している「思いやり」の気持ちなどに新たに見えるものが出てきた。

Keywords : 幼稚園教育、思いやり、実態把握、思いやり行動、表出

### はじめに

現在、子どもたちの人間関係をめぐるトラブルが、育ちの場である教育現場の中をはじめとする各地で頻発し社会問題となっている。このことについて、たとえば文部科学省の「道徳教育推進状況調査」に対する小学校現場からの回答に重点指導項目として「思いやり」が挙げられているが、それは同時にその前段階となる就学前教育期における課題でもある。

しかし、「思いやり」の教育の重要性は語られるが、一方で心のはたらきである「思いやり」を具体的な手立てとして「どのように」育て、また「どの程度」育てているかを把握することには困難がある。これまでさまざまな測定方法がとられてきたが、多くは行動面から場面を定めて拾っていくというものだったり、感想や印象によるものだったりしている。本研究は、幼稚園教育の現場における「思いやり」に注目した具体的な教育の方途を探ろうとするものであるが、ここでは、まずその基礎的作業として、研究対象とする一幼稚園の教師たちに対するアンケートを通して、同園の園児たちの「思いやり」に関する実態がどのように把握されているかみていくことにする。

### 1. 「思いやり」の教育

#### ①生きる力

平成20年3月に学校教育法施行規則が改正され、現在、新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領及び中学校指導要領が全面実施されている。改訂後も、中心的理念である「生きる力」は継続され、その中で思いやりの心は、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」として重要視されている。

「思いやり」の心は、豊かな人間性の重要な要素になっているだけでなく、知・徳・体のバランスを担う力としても重要とされている。

すなわち、さまざまな問題に積極的に対応し解決しようとする力や、自ら考え、表現する力、健やかな体などと調和を図りながら培っていくことが大切になっているのである。

#### ②幼稚園教育要領

幼稚園教育要領において「思いやり」教育が直接述べられているのは、「第2章ねらい及び内容」中の「人間関係」領域においてである。「(5) 友人と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う」、「(6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く」、「(10) 友人と

1. 宮城学院女子大学附属幼稚園長

のかかわりを深め、思いやりをもつ」とある。

さらに、「3 内容の取扱い」において「(4) 道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるように」すること、「人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること」としている。

このように、幼稚園教育要領においては思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきなどを経験しながら次の学校段階へと連続して培っていくことによって次第に道徳性の芽生えにつながるとされている。このことを踏まえて、幼稚園では幼小を連続した長期間にわたり、計画的に進めていくことが重要になっている。

### ③価値観の多様化

現在、いじめや暴力が大きな問題になっているが、その背景には対人関係の不得手や表面的な人間関係、思いやりの欠如があるとされている（※1）。これは、子どもの問題だけではなく、価値観が多様化したことによる家庭や社会の問題でもあると指摘されているのである。

親世代の価値観の違いは、協調性や思いやりの欠如を生み、規範意識を低下させている。社会問題化した「いじめ」の対策として、幼児期からの思いやり教育が求められている。

## 2. 思いやりの定義

平井信義氏ら（1999）によれば「思いやり」の研究は長い間その土台を海外の文献をもとにし、行動の面から扱われてきたと言う。「思いやりと翻訳された原語は“prosocial behavior”『向社会的行動』という用語が一般的で、『社会に向いている行動であった』』としている。この「向社会的行動」の意味について、山村・中谷両氏（2012）は「社会において望ましい行動のことである。」（※2）と述べている。「思いやり」は社

会において望ましいかどうかという指標を用いて行動面から捉えられてきたのだとする。

これに対して、平井氏らは「思いやりとは、相手の立場に立って、相手の気持ちを汲む心」とし、行動のもととなった心の動きに重きを置いて考えている。

さて、本研究の目的は、幼児教育の現場において今後どのような方向性をもって教育していくことが必要なのかを探ることである。したがって、例えば行為としては望ましくても、その内側に「打算的なもの」や「表面的なもの」などが含まれていれば、思いやりのある行為としては扱うべきではないと考える。

思いやりの心をもった人間に育てようとする教育の場における定義、教育的実践の場における定義としては、行動のもととなった気持ちに駆け引きや打算などが含まれないものを用いたい。

以上のことから、本研究では平井氏らの「思いやりとは相手の立場に立って、相手の気持ちを汲む心」という定義を用いることとする。

## 3. 研究の方向と範囲

### (1) 研究の方向

幼稚園の担任教師の捉えた思いやりの行動場面と思いやりの反対の行動（以降、「反対行動」表記とする。）を平井氏らの提唱する「子どもの内面の気持ち」を手掛かりに分析し、そのカテゴリーごとの表出量を調査する。

### (2) 研究の対象範囲

「思いやり」は人および人々の集団に対するものであるとの考え方が一般的であり、動植物の世話などは対象にしないのが通例となっているが、ここでは「相手の立場に立って、相手の気持ちを汲む心」という定義のもとに、対象に人間が関係する場合においては動植物の世話などであっても、対象範囲に含めて取り扱っていくこととする。

## 4. 研究方法

### (1) 研究の方法

担任教師に調査用紙を配付して「思いやり」行動と反対行動の事例を集め、その分析を通して、思いやりの心がどのように集中・分散を見せるかを測定した。具体的には以下のように行った。

①M幼稚園の教師（担任）に調査用紙を配付し、教育時間中の様子から幼児の思いやり行動と反対行動等の記入を依頼した。

②①の調査用紙をもとに、幼児の思いやり行動とその反対行動について、それらのもととなった幼児の気持ちを分析した。

行動のもととなった気持ちの分析には平井氏らの「思いやりの観察行動項目」（※3）を用いた。③これらを通して発達段階ごとの「もととなった気持ち」の集中・分散を測定した。

### (2) 調査の対象と期間

調査対象 対象園の担任教師6名

学年	組	在籍数		担任数
		2008	2009	
3歳児	うさぎ	11	19	1
	ひよこ	14	18	1
4歳児	すみれ	21	17	1
	たんぼぼ	19	20	1
5歳児	ばら	30	21	1
	ゆり	29	22	1

調査期間

2008年（平成20年）4月から

2010年（平成22年）3月まで

調査区分

調査Ⅰ（2008年度 1学期について）

調査Ⅱ（2008年度 2学期について）

調査Ⅰ（2009年度 1学期について）

調査Ⅰ（2009年度 2学期について）

調査Ⅰ（2009年度 3学期について）

### (3) 調査内容及び分析方法

①調査内容（該当部分のみ、詳細は巻末）

調査用紙（『『思いやりのある子ども』に育てるために』）を配付し、以下6項目について集約した。

1. ～3. 省略
4. クラスの子どもたちに「思いやり」行動が見られたなら、その具体的場面を述べて下さい。
5. 「思いやり」の反対の行動が見られたなら、その具体的場面を述べて下さい。
6. 省略

以上について担任教師による場面記述を集約した。

②分析方法

平井・帆足両氏らの「思いやり観察行動項目」により、事例場面にあられた項目をカウントした。事例場面にはさまざま要素が含まれる場合があったので、要素ごとにカウントしていった。カテゴリー項目は以下のとおりである。

大項目10

- 1 相手の気持ちをくもうとする表出
- 2 相手に気持ちをくんでもらおうとする表出
- 3 相手を援助しようとする表出
- 4 みんなと協力しようとする表出
- 5 情緒を素直に表現する表出
- 6 アイデアを豊かに表現する表出
- 7 相手の気持ちを共有する表出
- 8 相手との関係を深めようとする表出
- 9 相手の心に積極的に興味をもつ表出
- 10 その他

小項目50（省略）

## 5. 調査結果

### (1) 対象全幼児の結果

①全園児の傾向

思いやりとその反対行動について、全幼児の調

査を集計したところ、以下のような結果を得ることができた。

表1 全園児の項目ごとの表出数

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
思いやり	36	4	38	18	1	3	11	2	23	11	147
反対行動	21	10	2	1	6	0	1	5	13	13	72
合計	57	14	40	19	7	3	12	7	36	24	219

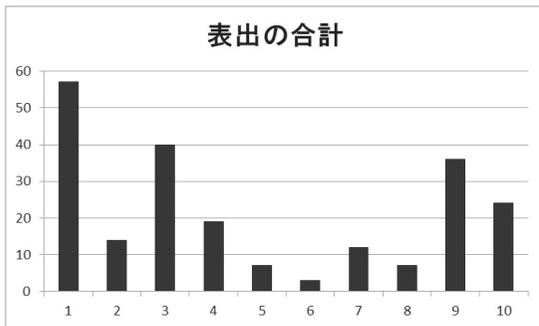


図1 全園児の「思いやり行動」と「反対行動」に見られる全表出数

ア 園児全体の思いやり行動と反対行動の表出合計数を見ると、項目1、3、9が高かった。このことは、園内での生活において、相手の気持ちを汲もうとしたり、何かをしてあげたり、相手の気持ちを理解しようと質問したりする気持ちが働き、または働かない場面が多いことを表している。その小項目は、以下の通りである。

1-1 困っている子どもにやさしくする

1-3 困ったり悲しんだりしている人の様子をみて声をかける

1-5 大事なものをゆずる

3-12 様子を見て助けてあげる

3-15 わからないでいる他児に教える

9-40 ありのままを認める

9-41 相手の心を理解しようと考えたり質問したりする

9-43 相手の表情や行動をみて反省し、気持ちを知らそうとする

(9-43は、項目9で小項目43を表す)

次に、思いやりの行動と反対行動を分けた全園児の表出数の状況をみたと、以下のものであった。

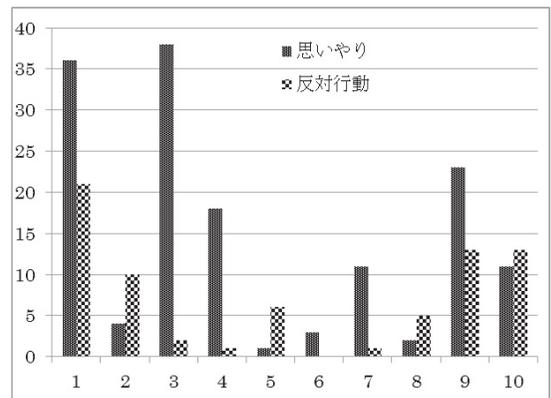


図2 全園児の「思いやり行動」表出数と「反対行動」表出数

ア 思いやり行動が反対行動を大きく上回ったのは項目3、4、7であった。このことは、相手を援助しようとする気持ちや協力しようとする気持ち、相手の気持ちを共有する気持ちをもって生活していることを表している。

イ 6割の項目において思いやり行動が反対行動を上回り、それ以外の項目は反対行動の表出が多くなっていた。4割の項目においては反対行動が上回っていた。

ウ イのことにする具体としては以下のとおりである。項目1、3、4、6、7、9において思いやり行動が上回っているが、項目2、5、8、10については、反対行動が上回っている。項目2：相手に気持ちをくんでもらおうとする表出

項目5：情緒を積極的に表現する表出

項目8：相手との関係を深めようとする表出

項目10：その他

これらについては発達段階ごとに詳細を検討する必要があると感じられた。

## ②全園児の「思いやり」行動

項目1、3、9について高い表出数が見られた。このことは、思いやり行動については、「1相手の気持ちをくもうとする」「3相手の援助をしようとする」「9相手の心に積極的に関心をもつ」ことができていたことを表している。

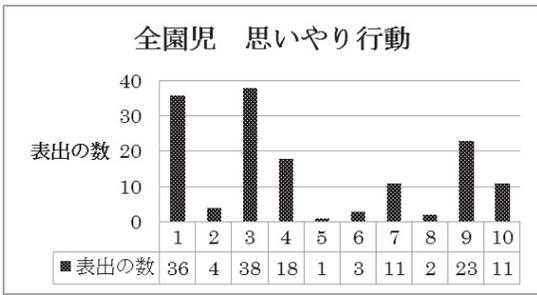


図3 全園児の「思いやり行動」に見られる表出数

一方、項目2、5、6、8については極めて少ない表出数となっていた。このことから、「2相手に気持ちをくんでもらおうとしたり」「5情緒を素直に表現する」「8相手との関係を深めよう」とすることが少なく、自分を理解してもらおうとする気持ちの表れが少ないことが見て取れた。

③全園児の反対行動

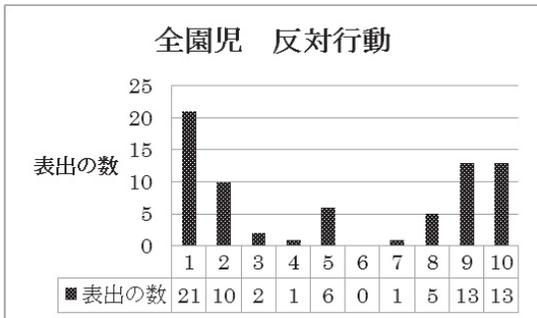


図4 全園児の「反対行動」に見られる表出数

反対行動については、項目1、2、9、10が高い表出数となっていた。このことは、相手の気持ちをくもうとすること、相手に気持ちをくんでもらおうとすること、相手に関心をもつこと、その他（ハンディのある相手への自然な助けの行動など）において、思いやりの気持ちの欠如が見られることを表している。

一方、項目3、4、6、7については表出数が少なかった。このうち、項目3、4については思いやり行動の表出数が上回っていたが、項目6、7については両行動ともに表出数が極めて少なかった。このことから、アイデアをもって遊んだり相手の気持ちにそって表現したりすることが不得

手であることを見て取ることができた。

(2) 3歳児の結果

①思いやりの行動

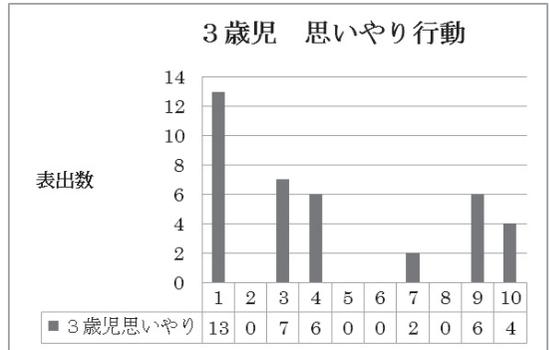


図5 3歳児の「思いやり行動」に見られる表出数

3歳児においては、項目1の表出数が高く、項目3、4、9、10が次いでやや高い傾向を示していた。項目2、5、6、8については表出数がゼロとなっていた。このことから、3歳児においては、困っている子どもにやさしくしたり、声をかけたり助けたり、譲ったりするなどの気持ちを表しながら生活していることを見て取ることができる。一方、自分の気持ちを表に出して許してもらったり、分かってもらったりするなどの気持ち場面や相手との関係を深めようとする気持ち場面は見られないことが分かった。

②反対行動

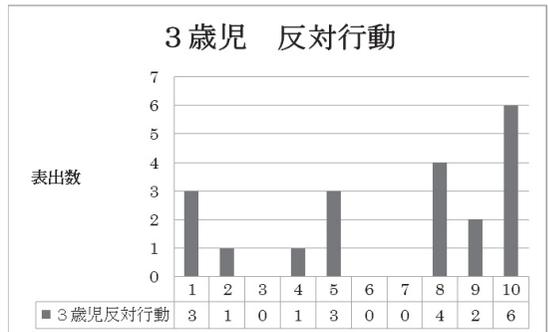


図6 3歳児の「反対行動」に見られる表出数

3歳児の反対行動に見られる表出数は、「10.その他」を除いては、項目1、5、8が高く、項

目9もやや高い傾向を示していた。項目10はもっとも高かったが、その内容は生き物を踏みつけて遊んでいたなどであった。部屋に入ってきた虫を踏み潰し他の子どもが「虫さん、かわいそうだよ」と言ったのも聞かずに殺していたなどの例もあった。

項目1については思いやりの表出数も高いことから、場によって相手の気持ちをくもうとすることが、できたりできなかったりするという3歳児段階の姿とみることができた。

項目5、8については思いやり行動の表出がゼロとなっていたことから悔しいときに悔しがったりうれしいときに心から喜んだりする素直な気持ちの表現ができていないこと、嫌がっている友達にわざといやなことをし続けることなどの課題があることが読み取れた。

### (3) 4歳児の結果

#### ①思いやりの行動

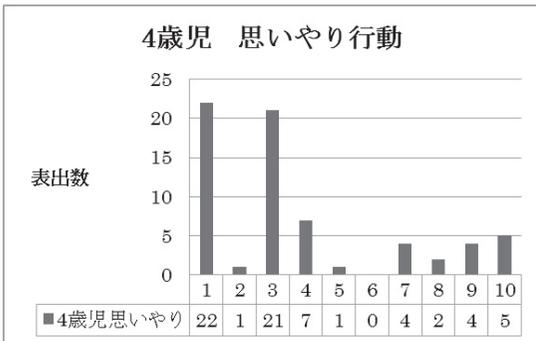


図7 4歳児「思いやり行動」に見られる表出数

4歳児においては、項目1、3が高く、他は低い傾向が見られた。項目1は相手の気持ちをくもうとする表出であるが、その中でも、困っている子どもにやさしくし、悲しんだりしている人に声をかける表出が多かった。

項目3は相手を援助する表出である。具体的には、様子を見て他児を助けたり、分からないでいる他児に教えたり、面倒を見たりする表出である。

M幼稚園における4歳児新学期は、進級児と新入園児が混在してスタートする。新入園児にとつ

ての困りごとを進級児が助けてあげたり、遅れている作業を手伝ってあげたりするなどの姿も見られた。

#### ②反対行動

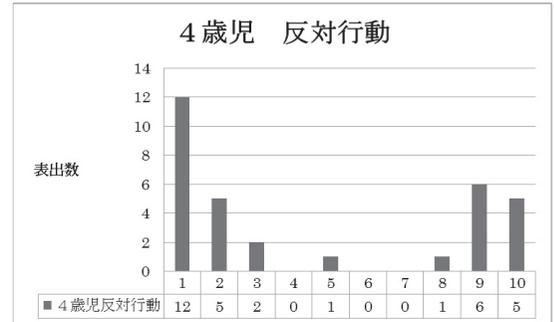


図8 4歳児の「反対行動」に見られる表出数

4歳児の反対行動については、項目1相手の気持ちをくもうとする表出がもっとも多かった。この項目については思いやり行動の表出数も多かったことから、さまざまな場面において、また幼児によって違った姿が見られていることがうかがえた。また、4歳児の特有の傾向として、大事なものを譲ることができない姿も見て取れた。

項目2、9、10については数値は多くないが、一定程度の数値が並んで見られた。このうち、項目9、10についての具体的な姿としては、「貸して」と言ってきた友達に言葉を返さなかったり、「だめ」とはっきりと断ったりする姿が捉えられ、声をかけてきた相手に気遣いを示したり、関心を示したりすることができていないことが見て取れた。

### (4) 5歳児の結果

#### ①思いやりの行動

5歳児の思いやり行動については、項目3、9が高く、次いで項目4、7が高くなっていた。項目3は相手を援助しようとする表出であり、項目9は相手の心に積極的に関心をもつ表出である。

絵本を広げる子どもに「そこは通り道だからこっちに来るといいよ」と声をかけたり、走ることの苦手な子に配慮してルールを変えて楽しませた

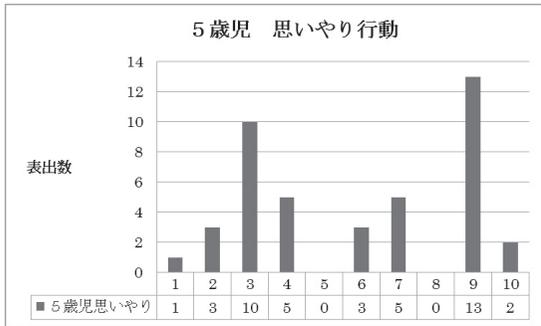


図9 5歳児の「思いやり行動」に見られる表出数

りした事例で、5歳児段階にふさわしい思いやりの気持ちが表出されていた。

項目3については、折り紙を「こう折るんだよ」と教えたり、製作活動に使うお手拭きを「〇〇ちゃん、持っていくね」と声をかけて友達の分まで持って行ってあげるなどの姿が捉えられていた。

3歳児4歳児に多かった項目1の相手の気持ちをくもうとする表出は少なく、項目9、3が多くなっていたことが特徴と言える。

また、3歳児、4歳児に見られなかった、「項目6アイデアを豊かに表現する」が、数値は低いが初めて出現していた。具体的には、「遊びの中で足りないものがあったり、準備ができなかったりしたとき、相談にのったり、アイデアを出したりして解決策をともに考えていた」「友達の提案を『いいね』『やってみようか』と言って受け入れたり『こうしてみよう』『こうしたらいいんじゃない?』とアイデアを出したり、活発に意見を交わし合っていて遊んでいたなどというものであった。

5歳児の特徴として、4歳児比において項目3は5倍、項目9は2倍の数値が出現していた。この状況から、発達過程と関係していることをうかがうことができた。

## ②反対行動

5歳児の反対行動では、項目1、2、9が高かった。項目1は、思いやり行動の表出数が1であるのに対し、6と高くなっていた。項目2では、思いやり行動の表出が3なのに対し4となっていた。項目9については思いやり行動も反対行動も

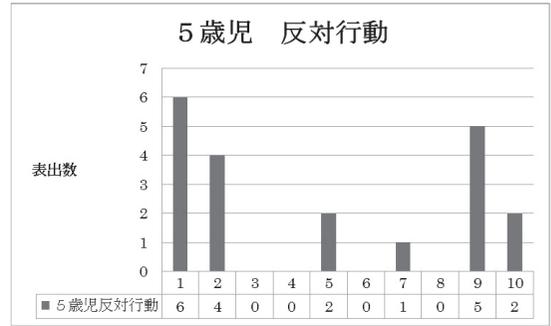


図10 5歳児の「反対行動」に見られる表出数

高くなっていた。

自分の意見だけを言って友達の意見を聞こうとしなかったり、友達の行動を悪く指摘したりしたなどがその内容である。

5歳児は、項目9において、思いやり行動に見られる表出数とともに急激に高い数値を出現させていた。これは相手の心や気持ちに関心を示すようになり、相手の表情などから自分の行動を反省することができるようになるなどの発達段階や精神構造に関係しているのではないかと考えられる。

## (5) 事例から見えるもの

### ①事例1

3歳児 項目1 相手の気持ちをくもうとする表出の例（「大事なものをゆずる」）

集まりの時間に長椅子に座ろうとした時、座れる人数が決まっていたために座れなくなった子が出た。A男は座れなくなった子に自分の場所を譲ろうとした。これまでは「自分が先」と友達を押ししたり、自分の気持ちを主張したりしていたが、このときは「ここに座っていいよ」と声をかけた。相手の子は「いいよ、大丈夫」と遠慮したが、A男は「いいよ、座って」と照れながら譲った。何度かやり取りをして、譲ってもらった子が「ありがとう」と言って座った。

(2010 3歳児3学期)

これまでのA男はいつでも自分が「優先」だった。友達を押しのかけても自分のしたいことを第一

にしてきた。自分の主張を通してきたA男だったが、このとき初めて人に譲ることができた。A男の行動は感謝されることを期待して起こしたものではなかった。これまでも譲りたい気持ちをもってはいたが、できなかったのだと考えられ、照れながら譲ったというのは、これまでの自分と違う自分を恥ずかしく感じたためと思われた。

②事例2

4歳児 項目9 相手の心に積極的に関心をもつ表出（「相手の心を理解しようとする」）

片付けの時間になってもなかなか遊びを終わらせることができないでいたA子。1学期までは「もう、A子ちゃんたら。全然片づけしない！」と苛立っていたB子だったが、2学期の中ごろからA子の性格や遊びを理解するようになり、「このごちそう作り終わったら一緒に片付けよう」と優しく声をかけるようになってきた。

A子はB子に受け入れられたことでスムーズに遊びを切り上げられるようになった。

(2008.12 4歳児2学期)

これまでのB子は、遊びを終わらせられないことに対して苛立ちを示していた。しかし、2学期になると、A子のことが理解できるようになってきた。A子がどんなことに興味をもっているのか、なぜ遊びをやめられないのかのかが分かり、A子の立場に立って考えてあげることができるようになってきた。

B子の言葉が苛立ちから理解する気持ちへと変わったことによって、A子も変わってきた。

③事例3

5歳児 項目10 その他（相手のハンディを気遣う事例）

修了式の練習やその雰囲気戸惑い、周囲の状況に構わず、座り込んだり、寝転ん

だりして体を落ち着けることができないA男の姿に動じることなく、周囲の子どもたちはその姿を受け入れ、練習を続けた。相手のできる範囲を認め、自分も精一杯の取り組みを見せた。

(2010 5歳児3学期)

5歳児3学期、まもなく修了式を迎える時期の事例である。5歳児が全員で式の練習をしていた。多くの子は静かな態度で練習に参加していたが、ハンディをもつA男だけは落ち着かない態度だった。動き回ったり物音を立てたりして、周囲に迷惑をかけていることは明らかだった。

しかし、周りの子どもたちはA男の態度を気にかけることなく静かに見守っていた。このことがじょじょにA男の気持ちを安定させていった。

6. 結果の考察

(1) KJ法でとらえた実態との比較から

2012年7月、KJ法による実態把握を行った。担任6名と補助教員2名及び管理職が参加し、園児の姿を多方面から拾い集めていった。その後、集団討議を行い、以下の結果をまとめた。（一部）

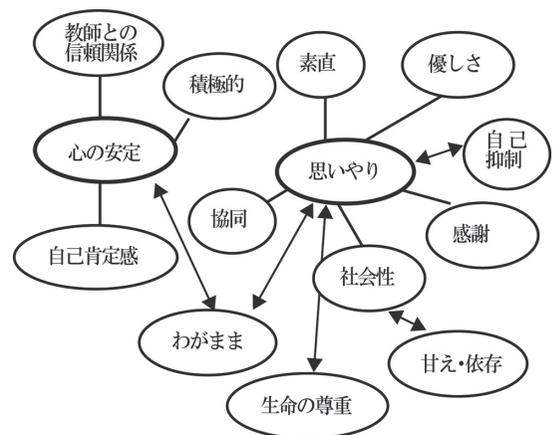


図11 KJ法による実態（一部）

思いやりについて（生き物を含む）教員全員で討議し、園児の実態を以下のように捉えた。

- 1 優しく素直で、いろいろな人と進んで関わり、感謝の心をもって生活している。
- 2 人に愛され守られていることを感じながら安心の気持ちをもって過ごしているが、甘えや依存、わがままな面も見受けれる。
- 3 自分のしたい気持ちを抑えられず生き物をむやみに殺したり目的もなく花を摘んだりする姿がある。
- 4 相手によって挨拶をしたりしなかったりする面があり、態度にむらがある。また、相手にいやな思いをさせてしまう。

KJ法による結果は、今回の「思いやり観察行動項目」による実態把握の内容とほぼ同じ傾向を示していた。

しかし、内容的には今回の方法が、KJ法におけるものよりも具体的で事例に即して詳細を捉えていた。

たとえば、KJ法において、「思いやりにつながる「優しさ」ととらえたこと」の具体は、困っている子に声をかけようとする気持ちであり、相手の性格やハンディなどを理解してあげようとする気持ちであると捉えることができた。そして、これらは、相手への援助、関心、気持ちの共有などが表に現れたものであると、その精神的な働きの構造も把握することができた。

## (2) 留意したい、行動に表出した思いやりの気持ち

これまで、M幼稚園の園児は、優しく、親切で、人のことを考えてあげられる子どもたちが多くと捉えられてきた。しかし、今回の方法で分析した結果、少々違う面がいくつか見えてきた。併せて、方法としても改善しなければならない面があることが見えてきた。

その一つは、相手の気持ちをくんで行動できる子どもが多いが、それができずに反対行動を起こす子も気にかかる程度にいるという事実である。教師は判断を迫られ、多い方の印象をもとにしてしまうことが多い。しかし、「思いやり」は一人

一人の内面に育てたい課題であることから、この実態を見る場合においては全体の把握で終わってしまってはならない。一人一人にどのような気持ちや心が育っているのか、あるいは育っていないのかを見ることが重要である。今回の「思いやり観察行動項目」を用いた方法では、行動事例を通してそれらがより見えやすくなっており、今後方法を検討する際のポイントになると思われる。

また、生き物を平気で踏みつけたり、死んだ虫を見て笑い転げて楽しんでいる子どもたちの姿がより明確に浮かび上がってきた。これらの実態は、KJ法による把握においても指摘されていたことだが、この研究でもこの項目における反対行動の数値が思いやり行動を上回っていたことが判明し、鮮明に浮き上がったのである。

さらに、項目2の「相手に気持ちをくんでもらおうとする表出」も反対行動が上回っていた。これは、いやな気持ちを素直に訴えたり、自分の気持ちを分かってもらおうとすることが少ないことを意味していた。

項目5の「情緒を素直に表現する表出」も反対行動の方が上回っていた。悲しいときに素直に悲しいと言って泣くこと、うれしいことや楽しいことがあったら心から笑うことなどは、自分の気持ちに素直になることであり、ありのままを表現して安心して過ごすためにもっとも大切にならなければならないことである。

自己受容ができて相手の気持ちが汲めるようになるが、こうした自己受容がM幼稚園の園児には十分ではないことが分かってきたのである。

行動面の調査だけでは測定できないことが、今回の方法で把握できるようになったと言える。

## (3) 年齢による違いと特徴

年齢ごとの違いや特徴を見てみたところ、次のような姿を推測することができた。

①3歳児は、主に人にやさしくしたり、許してあげたり、譲ったりなど軸にした思いやりの気持ちをもって生活している。②4歳児は、やさしくする、譲るなどの気持ちをもって生活をしながら

も、それができる場合とできないできない場合があり、その一方、相手に気持ちを分かってもらおうとしたり、相手に関心を示したりなどの気持ちを高めながら生活している。

③5歳児は、4歳児でその芽生えを見せてきた相手に理解してもらおうとする気持ちや関心を、一層増大させながら生活し、また、相手の気持ちや心を理解しようとして話しかけたり、相手の態度や表情に関心を寄せ気持ちを押し量ろうとしたりする気持ちを高めながら生活している。こうした特徴や違いがあることが見て取れた。

## 7. 終わりに

この研究を通して、「思いやり」の心や「思いやり」の気持ちは行動面からだけでは把握しきれものではないということを、確認することができた。中には、反対行動として捉えられた行動の内にも「思いやり」の気持ちに通じるものが含まれていることもあった。それはまだ子どもの中で十分には高まっておらず、ただもやもやしているような状態で、反対行動のような様相をみせていることもあった。

幼稚園現場で必要となる教育としての「思いやり」は、行動だけではなくそこに含まれた気持ちこそ大事に扱わなければならない。行動にどんな気持ちが潜んでいるのか、行動のもとになった気持ちは何かをさらに大事にしなければならないと感じられた。

今回、研究対象としたM幼稚園は、教職経験を十分にもったベテランがそろい、観察力や洞察力、人間関係の把握力にも長けた教員が多い。このことから、通常において観察をもとにした印象および討議で十分な結果を得ることができると考えられた。しかし、実際に見えてきたものは、少々違う姿だった。このことは、今回の方法が実態把握の一つの方法として十分に効果を持つことを示していると言える。

## 引用文献

- ※1 「いじめ対応へのヒント」(文科省資料 2003年 10月東京学校臨床心理研究会運営委員作成)
- ※2 「児童が考える『思いやり』行動とはどのような行動か—小学生を対象にした自由記述調査から—」(大阪大学 山村麻予、中谷素之、2012. 大阪大学教育学年報. 17)
- ※3 「思いやりを育む保育」(平井信義、帆足英一編 新曜社 1999)

## 参考文献

- ・「人間関係」塚本美知子・大沢裕編著(一藝社 2010) 新・保育内容シリーズ2 谷田貝公昭(監修)
- ・「事例で学ぶ保育内容 人間関係」岩立京子編集代表 無藤隆監修(萌文書林2007)

## 使用資料

- ・『『思いやりのある子ども』を実践するために』
- ・佐藤正枝、色川幸子、佐々木和、庄子いづみ、齋藤彰子、福田花絵、加藤篤子、飯坂詩帆、高橋裕絵